

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題 28-c002

2. 研究テーマ名 「ぐんまから発信する交通まちづくり」

3. 研究期間 平成28年8月1日 ～ 平成29年3月18日

4. 研究代表者 工学部／社会環境工学科 教授 森田 哲夫

5. 課題提案者 技研コンサル株式会社

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

群馬県の都市は、公共交通機関の利用率が全国の都市の中でも極めて低い。少子高齢化、都市の郊外化が進行し、中心市街地の賑わいが喪失している。このような現状から、コンパクトな交通計画・まちづくりを推進し、将来も持続可能な地域を形成することが急務である。

本研究事業では、本学の地域・交通計画研究室の交通・まちづくりに関する調査・研究成果を活用し、交通計画、都市計画、都市行政、緑地・景観等の多面的な視点から今後のまちづくりについて検討した。また、まちづくりを支え、高齢者を含む誰もが利用可能な公共交通ネットワークのあり方を検討した。本研究では、交通計画と都市計画（まちづくり）の観点から、地域活性化の提言をとりまとめ、これら成果を書籍「群馬から発信する交通・まちづくり」として発刊した。

【書籍】群馬から発信する交通・まちづくり

・A4判・188頁 ISBN978-4-86352-172-8

・発行 上毛新聞社 2017年3月18日発行

〈読者の皆さんへ〉

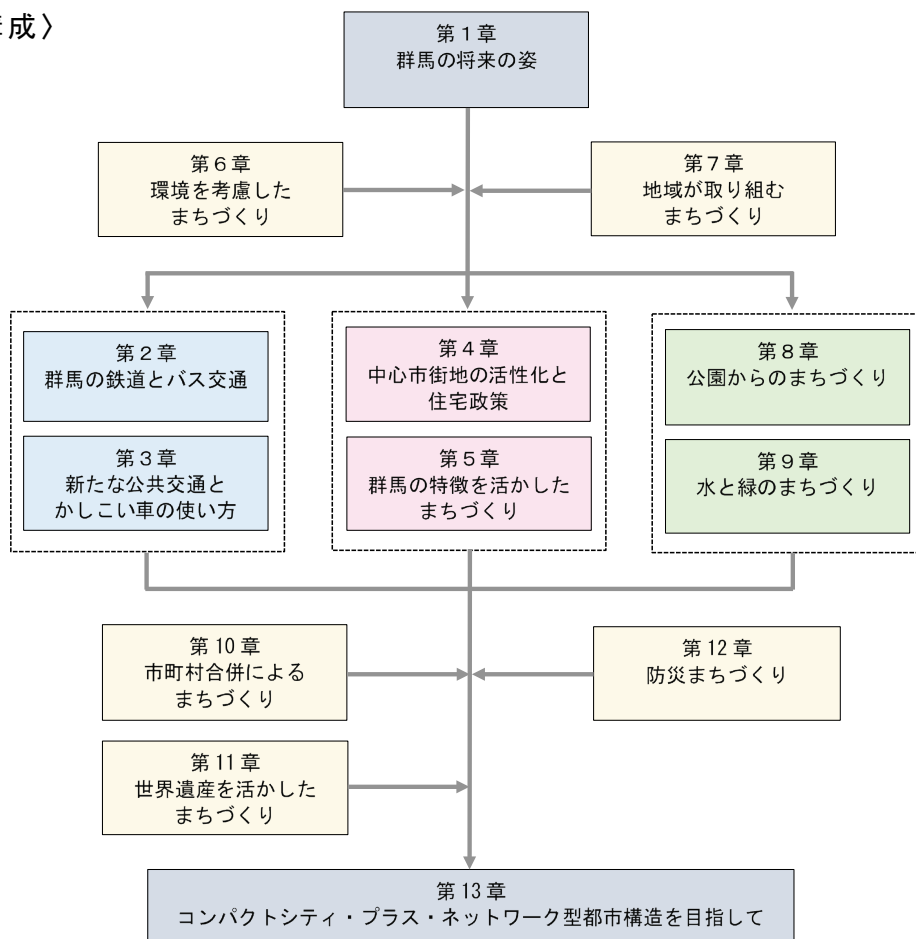
本書は、高校生から大学生、都市計画の初学者、行政の若手職員の皆さん、まちづくりに興味のある方を読者として想定しています。

私たち著者は、群馬県内の都市計画（まちづくり）、交通計画（交通まちづくり）の事例、調査、研究成果を、群馬から発信しようと考えました。内容は、前橋工科大学の地域・交通計画研究室の研究成果をもとにし、客観的な資料やデータに基づき記述するように心がけました。専門的な部分もあるので、難しいところは読み飛ばして構いません。興味のあるところから読んでください。交通・まちづくりのヒントを数多く示し、まちづくりに興味をもってもらいたいと願っています。

〈表紙カバー〉



〈本書の構成〉



〈ページ見本〉 1テーマ 2ページか 4ページ、合計 50テーマ+提言

第1章 群馬の将来の姿

1-1 人口から見る群馬の将来

(1) 群馬の将来人口

市況や都市の特性を把握する方法は、地図や統計データを使用したり、現地調査や聞き取り調査をするなど様々な方法があります。その中で、人口の統計データを使って群馬を見てみましょう。地域の将来の主体は人です。人口に着目することで地域の現状を把握することができます。地域にはどのくらいの人が入っているか、年齢層はどうか、どの地区に住んでいるか、将来人口はどうか。まちづくりを考える上での最も重要な情報です。

群馬県人口は(図1-1-1)、戦後の増加、昭和135年(1960年)以降の高度成長期の増加を経て、平成16年(2004年)7月に303万5千人にピークを迎え、その後は減少傾向にあります。国立社会保険・人口問題研究所では、群馬県人口は、平成20年(2010年)から平成24年(2012年)の約30年間で37万8千人減少し、163万人になると推計しています。年齢階層別に見ると、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳、労働力となり得る人口)が減少し、高齢人口(65歳以上)が増加しています。人口が減少することは、地域や都心にどのような影響を与えるのでしょうか。

次に、年齢階層別の人口推計(図1-1-2)を詳しく見てみましょう。今後、2040年までに年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口が増加します。2010年は、生産年齢人口125万9千人に対し、年少人口127万5千人、高齢人口147万4千人です。生産年齢の125万9千人が、年少・高齢人口174万9千人の生活を支えています。30年後の2040年には、生産年齢の86万4千人が、年少・高齢人口76万5千人の生活を支えます。生産年齢人口が減少することにより負担が増えます。これまでのように、道路や水道などの社会基盤施設を維持していくことは困難になります。これからは費用のかからないまちづくりが必要になります。

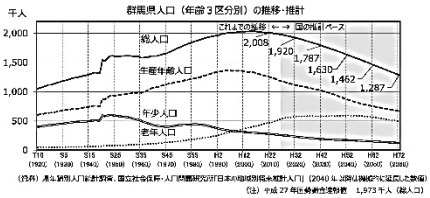


図1-1-1 群馬県の人口推移・推計 (出典：群馬県、第15次群馬県総合計画、2010)

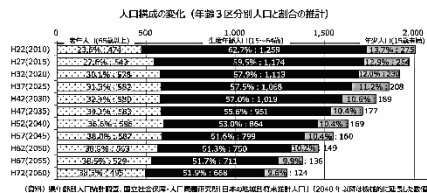


図1-1-2 群馬県の年齢階層別人口推計 (出典：群馬県、第15次群馬県総合計画、2010)

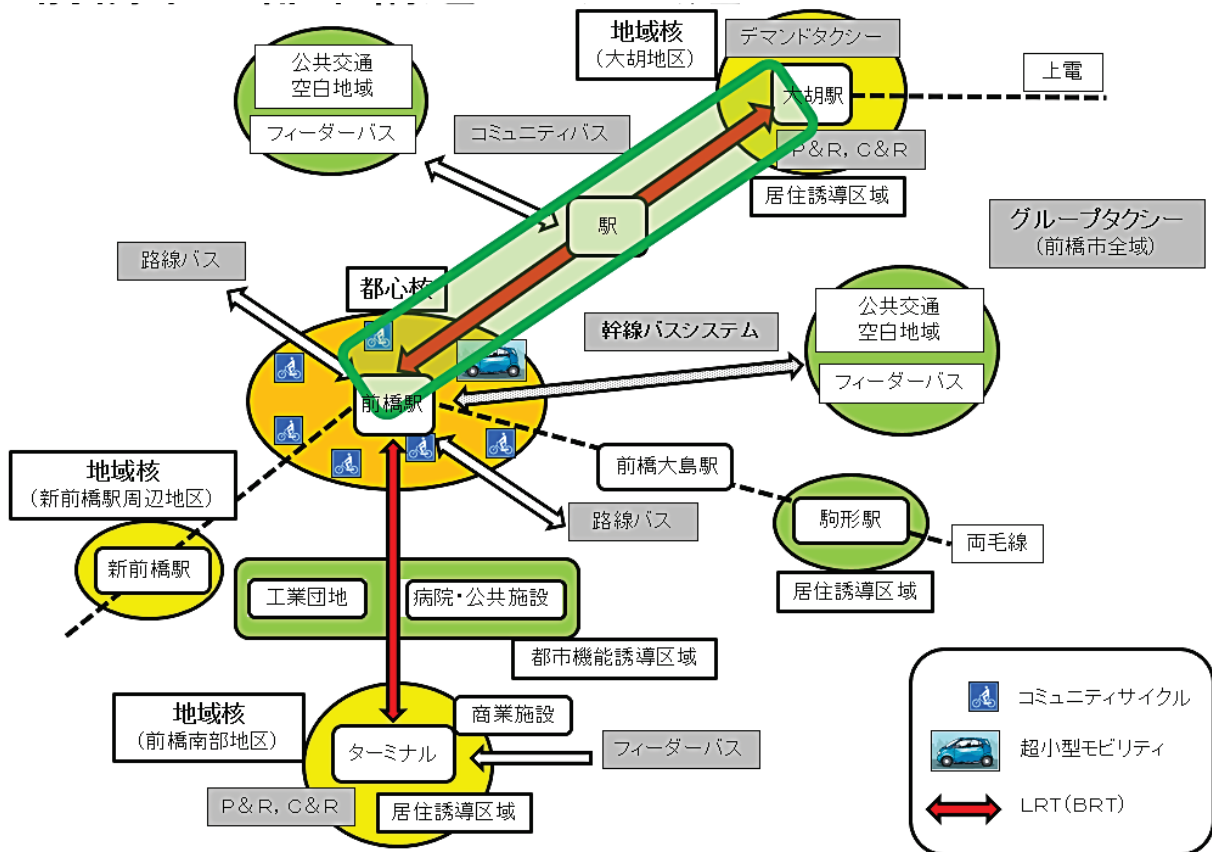
(2) 人口の減少要因

人口減少や少子高齢化の原因は何でしょうか。子どもが生まれなくなっている、群馬を離れる人が増えている、寿命が延びているなど、いくつかの原因が考えられています。群馬県の出生・死亡数(図1-1-3)を見ると、出生数は1970年代以降、減少を続けています。一方、1980年頃から死亡数が増加を続け、2005年には死亡数が出生数を上回りました。ちょうど、群馬県で人口減少が始まった時期です。なお、1966年は四年(ひのえうま)の年で、出生数が減少しました。出生数減少の原因として出生率の低下があげられます。合計特殊出生率(図1-1-4、女性が生涯に産む平均子ども数)を見ると2010年には1.16人となっています。少なくとも2人以上でないといは減少するわけですから人口減少の直接的な原因です。女性の年齢階層別に見ると、20歳代後半で低下が顕著であり、30歳代はゆるやかに上昇しており、晩産化の傾向が見られます。若年人口(15~49歳男女)の減少、有配偶率の低下、離婚率が人口減少の大きな原因となっています。



図1-1-3 群馬県の出生・死亡数の推移・推計 (出典：群馬県、第15次群馬県総合計画、2010)

〈群馬から発信する交通・まちづくり〉コンパクトシティ+ネットワーク型都市構造



〈著者〉

- ◆編著者 湯沢 昭 (地域・都市計画)
前橋工科大学 名誉教授、工学博士、技術士 (建設部門)
森田 哲夫 (都市計画、交通計画)
前橋工科大学 社会環境工学科 教授、博士 (工学)
- ◆著者 塚田 伸也 (公園計画、緑地計画) 博士 (工学)、技術士 (建設部門)
西尾 敏和 (土木史、建築史) 博士 (工学)
橋本 隆 (都市計画、景観計画) 博士 (工学)、技術士 (建設部門)
目黒 力 (生活環境学、交通計画) 博士 (工学)、理学療法士

【成果報告会】まちなかキャンパス

群馬から発信する交通・まちづくり～前橋の公共交通の再構築に向けて～

日時： 平成 29 年 3 月 18 日 (土) 14 : 00～15 : 30

会場： 前橋市中央公民館「元気プラザ 21」 501・502 学習室

プログラム：

(1)交通・まちづくりの現在・未来

前橋工科大学 社会環境工学科 教授 森田 哲夫

(2)群馬から発信する交通・まちづくり～前橋の公共交通の再構築に向けて～

前橋工科大学 名誉教授 湯沢 昭

受講者数：60 名



前橋工科大学 工学部 社会環境工学科
地域・交通計画研究室
Regional and Transportation Planning Laboratory